

2大学学生との協働による「はちろうプロジェクト学生部2019」事業 報告

【事業の目的】

本事業の目的は、当法人の活動に関心を持つ秋田県立大学および秋田公立美術大学の有志の学生による「はちろうプロジェクト学生部」の活動をより深め、将来的に八郎湖や秋田県に関わってくれる若者を増やすことを目的とした、両大学生の交流・育成事業を行うことである。年間を通して、秋田県立大学生・秋田公立美術大学生 計14名が本事業に参加した。

【事業内容】

「はちろうプロジェクト学生部2019」を立ち上げ、秋田県立大学・秋田公立美術大学の学生に参画を呼び掛けた。参画者にはLINEグループを作り活動情報を発信し、両大学の学生の交流を兼ねたイベントを下記の通り4回実施した。また、それ以外にも八郎湖関係の他団体主催イベントや当法人の環境学習事業などもお知らせし、希望者には参加してもらった。

①7/3 草木谷のホタル観賞会：参加学生5名

潟上市昭和豊川山田地区・草木谷のホタルを鑑賞した。当日夕方に秋田公立美術大学・菅原香織准教授が送迎する美大生たちと秋田県立大学で合流。現地へ移動した。現地では、地元の山友会のメンバー3名に案内をしてもらった。暗くなるまで、この3名の会の活動についてお話をうかがった。

春先の雨不足による影響が懸念されたものの、暗くなるにしたがってゲンジボタルやヘイケボタルが数十匹飛んでいるのを見ることができ、学生たちは大変喜んでいった。



②10/26 プロジェクトWETエデュケーター講習会in秋田：参加学生7名

水に関する体験型環境教育プログラム・プロジェクトWETのエデュケーター資格を与える講習会を実施した。「驚異の旅」「大海の一滴」「青い惑星」などのアクティビティの体験および実践を通して、体験学習の手法を学んでもらった。今後は、受講者と相談し、八郎湖への活用法を探っていく。



③11/2 八郎湖のフィールド調査：参加学生3名

早朝に八郎湖の漁業の様子を見学。その後、八郎湖でウェーダーとたも網を用いた生きもの観察を行った。さらに、朝獲られた魚が持ち込まれる佃煮工場の佐藤食品を見学した。参加学生は、八郎湖の漁業と佃煮業の密接な関わり、新鮮な魚や佃

煮の美味しさを実感し、感激していた。午後は、五城目町の森山頂上に登り、八郎湖を一望した。



④12/1 ぼくらの里山生きものゲーム×はちりバ〜Hachiro Revival〜体験交流会：参加学生3名

当法人開発ゲーム教材「はちりバ〜Hachiro Revival〜」の基となったゲーム「ぼくらの里山生きものゲーム」の開発者・NPO法人樹木・環境ネットワーク協会の後藤洋一氏をお招きし、お互いの教材の体験と意見交換を行った。午後の部は一般参加者も交えての交流会として行い、学生・後藤氏・はちプロがユースパルに泊まってる夜の部では、今後の教材開発の可能性を話し合った。



【事業の成果・今後の取り組み】

①や③、その他の活動を通して、学生に八郎湖というフィールドを体験し、興味を持ってもらうことができた。また、②や④の活動を通して、環境教育の手法を伝え、教材づくりの可能性を広げて考えることができた。その成果として、来年度も八郎湖および当法人の活動に協力したいという学生が複数名現れた。

今後は、秋田県立大学サークル「八郎湖の環境を考える会（パチカン）」の活動、秋田公立美術大学「地域プロジェクト演習」の講義を通じ、引き続き大学生の八郎湖の活動への参画を呼び掛けていく。また、当法人で現在進めている、八郎湖の水草を復活させ、生態系回復のきっかけを作るプロジェクトに参画を呼び掛ける。プロジェクトのPRに協力してもらったり、プロジェクト自体を研究題材にしてもらえるように働きかけたりする予定。